２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅢ （ Carrier planning-Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大木　幸恵
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えを学ぶ。
（学校行事との兼ね合いで授業内容の順序は適宜変更の可能性あり）

【到達目標】

・卒業までの自分のキャリアプランを説明できる。
・目的を達成するために他者と協力することができる。
・卒業後のキャリアプランをイメージできる。

授業計画・内容	
1回目	春季インターンシップ振り返り
2回目	就職活動に向けての準備：今後のインターンシップスケジュールについて理解する
3回目	就職活動に向けての準備：求人票の見方を理解する
4回目	就職活動に向けての準備：　給与の仕組みを理解する
5回目	就職活動に向けての準備：　収支を概算し、希望労働条件を整理する
6回目	合同企業説明会に向けて
7回目	合同企業説明会に向けて
8回目	合同企業説明会振り返り
9回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
10回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
11回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
12回目	夏季インターンシップ準備：　内定獲得に向けて、インターンシップでの注意事項を認識する
13回目	前期試験に向けて：　試験規定・進級に必要な単位数等を正確に理解する
14回目	前期末評価および振り返り　前期に取り組んだ内容の習熟度を振り返る
15回目	後期に向けて：　後期授業について理解する
準備学習 時間外学習	授業内で提示された課題に取り組み、期日までに提出すること。
評価方法	・出席状況（60%） ※100%出席を60点とし、1回欠席ごとに5点減点 ・提出物（40%） ※40点満点とし、提出状況・丁寧さで総合的に評価

【使用教科書・教材・参考書】

授業内容に該当するプリントまたはデータを随時配布

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅢ （ Carrier planning-Ⅲ ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	大木　幸恵
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えを学ぶ。
（学校行事との兼ね合いで授業内容の順序は適宜変更の可能性あり）

【到達目標】

・卒業までの自分のキャリアプランを説明できる。
・目的を達成するために他者と協力することができる。
・資格取得に向けての受験勉強を計画できる。

授業計画・内容	
1回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
2回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
3回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
4回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
5回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
6回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
7回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
8回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
9回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
10回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
11回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
12回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
13回目	後期試験に向けて：　試験規定・卒業に必要な単位数等を正確に理解する
14回目	卒業制作：　卒業制作で取り組む内容を検討する
15回目	資格試験対策：　愛玩動物看護師国家試験に向けて、受験勉強方法を理解する
準備学習 時間外学習	授業内で提示された課題に取り組み、期日までに提出すること。
評価方法	・出席状況（60%） ※100%出席を60点とし、1回欠席ごとに5点減点 ・提出物（40%） ※40点満点とし、提出状況・丁寧さで総合的に評価

【使用教科書・教材・参考書】

授業内容に該当するプリントまたはデータを随時配布

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物病理学 （ Veterinary Pathology ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木道　浩子
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限

【授業の学習内容】

傷病動物の看護をするためには健常な動物との差異を把握しておく必要がある。
この科目では様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。

※担当教員実務経験：獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

動物の体の様子や器官及び組織の形態を観察することで、体に起きた変化（病態）について調べる方法を知っている。
病気の原因や成り立ち、それまでの経過を理解することにより、適切な予防や看護方針を立てることに役立てることができる。

授業計画・内容	
1回目	動物病理学とは何か　生体反応と病気の成り立ち
2回目	病理解剖と病理組織学的検査の目的や意義および作製法
3回目	細胞障害の過程とさまざまな細胞障害因子
4回目	傷害を受けた細胞の変化
5回目	細胞の増殖と組織の修復
6回目	血液とリンパ液の循環および循環障害
7回目	出血の原因と病態および血栓の成因
8回目	播種性血管内凝固およびショックの原因や病態
9回目	炎症の原因と経過
10回目	急性炎症と慢性炎症
11回目	免疫反応と免疫の異常
12回目	腫瘍の定義と分類
13回目	先天異常
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験の解説とまとめ
準備学習 時間外学習	授業後に次回授業に該当するテキストのページを告知 予習の上授業に参加すること また、小テストに向けて復習をしておくこと
評価方法	小テスト（20%） 筆記試験（80%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト3（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物薬理学 （ Veterinary pharmacology ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高山　清次
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】

動物に使用される医薬品の分類・規制・保管、薬物動態、薬物の作用、投与方法、薬剤の形状、薬用量計算、各種薬物について学び、動物看護師として必要な薬理学の知識を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物薬理学を学ぶことにより、動物病院における薬物の管理や準備等、日常的に動物看護師が行う業務に対する理解を深めることができるようになり、より安全な獣医療を意識できるようになることを到達目標とする。

授業計画・内容	
1回目	薬物治療の概念と目的を理解できる。
2回目	医薬品の分類と法規が理解できる。
3回目	薬物の動態学、薬物の分布を理解できる。
4回目	薬物の作用発現の機序、薬物の生体内変化の機序を理解できる。
5回目	薬物の投与方法と薬効発現を理解できる。
6回目	治療薬の薬物名、剤形を理解できる。
7回目	処方箋と調剤方法を理解できる。
8回目	中間評価・試験解説および振り返り
9回目	薬用量の計算手順（正確な体重測定、薬剤の有効成分量）を理解できる。
10回目	薬用量の計算手順（投与量の計算方法）を理解できる。
11回目	消毒法（消毒法と滅菌法）を理解できる。
12回目	抗菌薬の種類と作用機序を理解できる。
13回目	抗菌薬に対する耐性獲得・抗菌薬の残留を理解できる。
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験返却・解説・まとめ
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、授業態度と参加度（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト　第3巻　動物の疾病と予防および回復　第2版（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物薬理学 （ Veterinary pharmacology ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高山　清次
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】

動物病院で使用される薬剤について、作用・代謝・管理方法等について説明できるようになる。薬剤の処方は獣医師が行うが、調剤補助や投薬補助を行う動物看護師も基本的な薬剤の知識をもったうえで業務に携わるべきである。この科目では薬剤の取り扱いや、動物病院で扱う機会の多い薬剤の作用・代謝につい学んでいく。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

薬剤を適切に取り扱うことができる。
主な薬剤の作用機序や特性を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	抗菌薬の種類別特徴について理解できる。
2回目	消毒薬、殺虫薬について理解できる。
3回目	抗真菌薬、駆虫薬、抗原虫薬について理解できる。
4回目	神経系に作用する薬物（麻酔薬、鎮痛薬等）について理解できる。
5回目	呼吸器系に作用する薬物（呼吸興奮薬、鎮咳薬）について理解できる。
6回目	循環器・泌尿器に作用する薬物（血管拡張薬、心不全治療薬）について理解できる。
7回目	循環器・泌尿器に作用する薬物（抗不整脈薬、利尿薬）について理解できる。
8回目	中間評価・試験解説および振り返り
9回目	消化器に作用する薬物（制吐薬、抗潰瘍薬）について理解できる。
10回目	消化器に作用する薬物（消化管運動に作用する薬、止瀉薬等）について理解できる。
11回目	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物（オータコイド、糖尿病治療薬）について理解できる。
12回目	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物（甲状腺障害の治療薬、ステロイド薬）について理解できる。
13回目	血液・免疫系に作用する薬物（抗貧血薬、止血薬等）について理解できる。
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験返却・解説・まとめ
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、授業態度と参加度（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト3（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	産業動物学 （ Farm Animal Sciences ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	月時　加寿子
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

産業動物の歴史や品種、飼育管理法および畜産業の社会との関りについて学ぶ。

※担当教員実務経験：獣医師免許を取得した後、国際協力団体で家畜飼育に関わる。産業動物診療に従事。

【到達目標】

馬・牛・綿羊・山羊・豚・鶏の代表的な品種を説明できる。
産業動物の解剖学的特徴を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	産業動物の定義と特徴
2回目	ウシ①
3回目	ウシ②
4回目	ブタ①
5回目	ブタ②
6回目	ニワトリ①
7回目	中間評価
8回目	ニワトリ②
9回目	ウマ①
10回目	ウマ②
11回目	ヒツジ、ヤギ①
12回目	ヒツジ、ヤギ②
13回目	予備日
14回目	期末評価および振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	動物看護師認定試験の過去問題（産業動物分野）を見ておくこと。
評価方法	中間試験40% 期末試験40% 平常点20%

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト4（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	産業動物学 (Farm Animal Sciences)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	未定
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

愛玩動物看護師国家試験に向け、3年次に学んだ産業動物の解剖を総復習するとともに1年次の犬猫の解剖と比較することでより理解を深める。

【到達目標】

ウシ・ウマ・ブタなどの産業動物とイヌ・ネコなどの伴侶動物の解剖学的な違いを説明できる。

授業計画・内容	
1回目	愛玩動物看護師国家試験対策
2回目	愛玩動物看護師国家試験対策
3回目	愛玩動物看護師国家試験対策
4回目	愛玩動物看護師国家試験対策
5回目	愛玩動物看護師国家試験対策
6回目	愛玩動物看護師国家試験対策
7回目	愛玩動物看護師国家試験対策
8回目	愛玩動物看護師国家試験対策
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	動物形態機能学・産業動物学の復習をして臨むこと
評価方法	出席率を評価とする

【使用教科書・教材・参考書】

配布プリント・データ

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	実験動物学 (Laboratory Animal Sciences)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	施設実務従事者
		授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		（１）	曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

実験動物の歴史や品種、飼育管理法、実験動物との関わりについて学ぶ。

※担当教員実務経験：福岡県内の大学内実験動物施設に勤務する実験動物技師が授業を担当。

【到達目標】

実験動物の種類を説明できる。
実験動物の福祉について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	実験動物の定義
2回目	実験動物の種類
3回目	実験動物の福祉
4回目	実験動物に関連する法律
5回目	愛玩動物看護師国家試験対策
6回目	愛玩動物看護師国家試験対策
7回目	愛玩動物看護師国家試験対策
8回目	愛玩動物看護師国家試験対策
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの該当ページを読んだうえで授業に参加すること。
評価方法	出席率を評価とする。

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト4（ファームプレス）
配布プリント・データ

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	野生動物学 （ Wild Animal Sciences ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	井上　龍介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

獣医療従事者として理解しておくべき野生動物の生態系と環境保全および外来生物について学ぶ。
また、動物園等の展示動物について学び、様ざまな動物と人との関りを理解する。

※担当教員実務経験：1981年～「海の中道海浜公園　動物の森」立ち上げから20年以上責任者として携わり、園内の動植物の飼育管理の他獣舎や展示場の設計にも携わる。動物園における飼育技術を現場で実践してきた講師が授業を行う。

【到達目標】

野生動物の関連法規をふまえた取り扱いを説明できる。
外来生物による影響を説明できる。
動物園水族館の社会的役割を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	地球環境の変遷と生物の多様性、野生動物を含めた生態系の構成要素の概要を理解する。
2回目	動物地理学に基づく世界の動物地理区と各区別動物相の特徴を具体的動物種を例に理解する。
3回目	動物の分類階級の基本と国際動物命名規約に基づく学名表記の原則を理解する。
4回目	野生動物に関する国際条約についてその目的と主な対象種等を正しく把握する。
5回目	野生動物の保護に関する国内法、特に外来生物法について法律の内容及び対象動物を正確に把握する。
6回目	国内の野生動物種(哺乳類)について地理的分布域並びに生態的分布域を把握する。
7回目	中間評価試験および振り返り
8回目	国内の野生動物種(両生類、爬虫類)について地理的分布域並びに生態的分布域を把握する。
9回目	国内の野生動物種(鳥類、節足動物類)について地理的分布域並びに生態的分布域を把握する。
10回目	展示動物の形態と動物園水族館の存在意義。日本動物園水族館協会の目的と活動内容を把握する。
11回目	動物園動物の展示施設のコンセプトと展示手法、日常的飼養管理及び安全管理の実際を理解する。
12回目	飼育動物の福祉向上を目的とした環境エンリッチメント活動と、環境教育への取り組みの重要性を理解する。
13回目	ヒトと動物の共通感染症の知識と小動物ふれあい等の防疫対策及び飼養管理上の留意点を理解する。
14回目	期末評価試験および振り返り
15回目	動物飼養施設におけるハズバンダリートレーニングの実例とその効果を理解する。
準備学習 時間外学習	次回学習範囲のテキスト予習をし、授業後は復習をすること。
評価方法	課題レポート提出（30%）+筆記試験（70%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト4
動物園水族館雑誌vol.56
動物園水族館協会 飼育ハンドブック1～4

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物内科看護学演習 (Practice of Animal Nursing(Internd Medicine))	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	森若　賢子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日5時限

【授業の学習内容】

動物看護師には獣医師のおこなう傷病動物への処置を補助し、動物の回復を支援していく役割がある。この科目では動物に対し施される処置とその補助に関わる知識・技術を身に付ける。

※担当教員実務経験：福岡県内動物病院に勤務後、動物看護師育成に携わる。愛玩動物看護師。

【到達目標】

各処置の目的・必要な器具類が説明でき、取り扱うことができる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	排泄の援助：排尿・排便のしくみ、排泄障害
3回目	排泄の援助：排泄行動の援助
4回目	栄養管理：食欲のしくみ、栄養管理に必要なアセスメント
5回目	栄養管理：体脂肪率の評価
6回目	栄養管理：体脂肪率の評価
7回目	中間評価および振り返り
8回目	栄養管理：経腸栄養の種類
9回目	栄養管理：経口栄養（強制給餌）
10回目	栄養管理：経管栄養
11回目	栄養管理：経管栄養
12回目	栄養管理：静脈栄養
13回目	試験前復習
14回目	期末評価試験および振り返り
15回目	試験解説とまとめ
準備学習 時間外学習	各内容で関連した臓器の形態機能について復習すること。 栄養学について復習を行うこと。
評価方法	定期テスト（筆記）：中間評価40%　期末評価50% 出席率：10%

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト
配布プリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物外科看護学演習 (Practice of Animal Nursing(Surgery))	必修選択	必修	年次	3	担当教員	田中　克明
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （４）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3･4時限

【授業の学習内容】

周術期では術前・術中・術後のそれぞれに動物看護師が担う役割がある。この科目では周術期の動物だけでなく手術に関連する器具機材の管理についても学び、麻酔管理や器械係の役割も理解していく。

※担当教員実務経験：
獣医師免許取得後、山口県内の小動物病院に勤務ののち麻布大学付属動物病院にて全科の研修医として勤務。
平成元年福岡市にて開業。主に犬猫の臨床にあたり、内科外科問わず一次診療施設として診療を行う。

【到達目標】

周術期の動物に必要とされるケアを実践できる。
術前準備～術後管理までに必要となる一般的な器具機材を準備できる。
術中のモニタリングができる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	術前の情報収集　血液検査復習
3回目	術前の情報収集　血液検査復習
4回目	術前の情報収集　血液検査復習
5回目	術前の情報収集　血液検査復習
6回目	術前の情報収集　血液交差適合試験
7回目	一般的な軟部組織術で使用する器具
8回目	器具の消毒・滅菌
9回目	術者の準備
10回目	患者動物の準備
11回目	麻酔管理：導入～覚醒まで
12回目	歯科学　スケーリング実習
13回目	歯科学　スケーリング実習
14回目	期末評価および振り返り
15回目	スケーリング実習
準備学習 時間外学習	授業で学んだ内容を1年次の学習内容と統合し復習すること。 各手技で使用する器具類はテキストで名称・用途を確認・暗記すること。
評価方法	筆記試験(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物外科看護学演習 (Practice of Animal Nursing(Surgery))	必修選択	必修	年次	3	担当教員	田中　克明
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 （4）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3・4時限

【授業の学習内容】

周術期では術前・術中・術後のそれぞれに動物看護師が担う役割がある。この科目では周術期の動物だけでなく手術に関連する器具機材の管理についても学び、麻酔管理や器械係の役割も理解していく。

※担当教員実務経験：
獣医師免許取得後、山口県内の小動物病院に勤務ののち麻布大学付属動物病院にて全科の研修医として勤務。
平成元年福岡市にて開業。主に犬猫の臨床にあたり、内科外科問わず一次診療施設として診療を行う。

【到達目標】

周術期の動物に必要とされるケアを実践できる。
術前準備～術後管理までに必要となる一般的な器具機材を準備できる。
術中のモニタリングができる。

授業計画・内容	
1回目	術中のモニタリング
2回目	術中のモニタリング
3回目	外科実習
4回目	外科実習
5回目	外科実習
6回目	外科実習
7回目	外科実習
8回目	外科実習
9回目	外科実習
10回目	外科実習
11回目	外科実習
12回目	外科実習
13回目	外科実習
14回目	期末評価および振り返り
15回目	外科実習
準備学習 時間外学習	授業で学んだ内容を1年次の学習内容と統合し復習すること。 各手技で使用する器具類はテキストで名称・用途を確認・暗記すること。
評価方法	筆記試験(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物外科看護学演習 (Practice of Animal Nursing(Surgery))	必修選択	必修	年次	3	担当教員	森若　賢子
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日5時限

【授業の学習内容】

周術期では術前・術中・術後のそれぞれに動物看護師が担う役割がある。この科目では周術期の動物の多くに必要となる創傷管理・疼痛管理についての知識を身につける。

※担当教員実務経験：福岡県内動物病院に勤務後、動物看護師育成に携わる。愛玩動物看護師。

【到達目標】

周術期の動物に必要とされるケアを実践できる。
術前準備～術後管理までに必要となる一般的な器具機材を準備できる。

授業計画・内容	
1回目	Ope準備の確認
2回目	創傷管理：治癒過程
3回目	創傷管理：治癒過程
4回目	創傷管理：治癒の阻害因子
5回目	創傷管理：ドレッシング材
6回目	創傷管理：腹帯作成
7回目	中間評価および振り返り
8回目	総復習
9回目	疼痛管理：痛みの種類
10回目	疼痛管理：痛みのメカニズム
11回目	疼痛管理：急性痛の管理
12回目	疼痛管理：慢性痛の管理
13回目	疼痛管理：まとめ
14回目	期末評価および振り返り
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	各内容で関連した臓器の形態機能について復習すること。
評価方法	定期テスト（筆記）：中間評価40%　期末評価50% 出席率：10%

【使用教科書・教材・参考書】

配布プリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床看護学総論 （ Introduction to Clinical Animal Nursing ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	池上　美紀
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日1時限

【授業の学習内容】

動物看護過程の一連のプロセスを学び、個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を理解する。

※担当教員実務経験：福岡県内の動物病院で動物看護業務に携わっていた。JAHA認定動物看護士1級を取得。
動物看護師統一認定機構 認定動物看護師。

【到達目標】

動物看護過程の流れと目的を説明できる。
動物看護記録の手法を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション　動物看護、動物看護過程とは
2回目	情報の収集と整理（アセスメント）
3回目	情報の収集と整理（アセスメント）
4回目	情報の収集と整理（アセスメント）
5回目	看護診断（問題の抽出と看護目標の設定）
6回目	看護診断（問題の抽出と看護目標の設定）
7回目	看護診断（問題の抽出と看護目標の設定）
8回目	看護計画立案
9回目	看護計画立案
10回目	看護計画立案
11回目	看護計画立案
12回目	看護評価
13回目	看護評価
14回目	前期末評価および振り返り
15回目	評価・解説
準備学習 時間外学習	各回の授業を復習したうえで次回の授業を受けること。
評価方法	筆記試験（90%） 授業に取り組む姿勢（5%） 出席率（5%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト5（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床看護学各論 （ Clinical Animal Nursing ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木道　浩子
		授業形態	講義	総時間 （単位）	60 （ 4 ）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限／木曜日1時限

【授業の学習内容】

傷病動物の看護をおこなうには、その動物の健康を阻害する疾患の原因・症状・治療・予後を把握しておく必要がある。
この科目では各器官系ごとの代表的な疾患を学び、疾病別の動物看護に活かしていく。

※担当教員実務経験：獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

各疾患の機序と症状を説明できる。
各疾患の検査法・一般的な治療法を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	循環器の仕組みと循環器疾患の検査や徴候
3回目	循環器疾患
4回目	呼吸器の仕組みと呼吸器疾患の検査や徴候
5回目	呼吸器疾患
6回目	消化器系の仕組みと消化器疾患の検査や徴候
7回目	口腔・咽頭の疾患
8回目	食道と胃腸の疾患
9回目	肝臓の疾患
10回目	膵臓の疾患
11回目	泌尿生殖器の仕組みと疾患の検査や徴候
12回目	泌尿器系疾患
13回目	生殖器疾患
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験の解説とまとめ
準備学習 時間外学習	授業後に次回授業に該当するテキストのページを告知 予習の上授業に参加すること また、小テストに向けて復習をしておくこと
評価方法	小テスト（50%） 筆記試験（50%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）
カラーアトラス最新くわしい犬の病気大図典（誠文堂新光社）
カラーアトラス最新くわしい猫の病気大図典（誠文堂新光社）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床看護学各論 （ Clinical Animal Nursing ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木道　浩子
		授業形態	講義	総時間 （単位）	60 （ 4 ）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限／木曜日1時限

【授業の学習内容】

傷病動物の看護をおこなうには、その動物の健康を阻害する疾患の原因・症状・治療・予後を把握しておく必要がある。
この科目では各器官系ごとの代表的な疾患を学び、疾病別の動物看護に活かしていく。

※担当教員実務経験：獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

各疾患の機序と症状を説明できる。
各疾患の検査法・一般的な治療法を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	整形外科疾患
2回目	筋骨格系疾患
3回目	脳神経系の仕組みと脳神経系疾患の検査や徴候
4回目	脳神経系疾患
5回目	眼の仕組みと眼科疾患の検査や徴候
6回目	眼科疾患
7回目	皮膚の仕組みと皮膚科疾患の検査や徴候
8回目	皮膚科疾患
9回目	アレルギー疾患
10回目	内分泌疾患
11回目	血液・造血器疾患
12回目	緊急疾患
13回目	担がん動物の看護
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験の解説とまとめ
準備学習 時間外学習	授業後に次回授業に該当するテキストのページを告知 予習の上授業に参加すること また、小テストに向けて復習をしておくこと
評価方法	小テスト（50%） 筆記試験（50%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）
カラーアトラス最新くわしい犬の病気大図典（誠文堂新光社）
カラーアトラス最新くわしい猫の病気大図典（誠文堂新光社）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床検査学演習 (Practice of Clinical Laoratory for Animal)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	野﨑　昭利
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限

【授業の学習内容】

動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各生体検査の目的と意義を理解し、的確な生体検査の補助ができることを目的とする。

※担当教員実務経験：獣医師。山口市内の動物病院ワンダークリニックを開業。今年で24年目となる。

【到達目標】

心電図検査、X線検査、超音波検査、眼科検査、神経学的検査の目的と意義を説明できる。
各検査に必要な器具と用途を説明できる。
各検査内容に合わせた動物の扱いができる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション　心電図検査　毎回各検査実習の前に、TPR測定，血液検査等を実施し、健康状態を確認する。心電計を触ってみる。
2回目	心電図検査の目的・意義を説明できる。
3回目	心電図検査の実施方法を説明できる。
4回目	心電図検査　各波の分析結果を説明できる。
5回目	心電図検査　実習を通してその技術を修得する。
6回目	血圧測定検査　血圧測定の方法・意義・注意点を説明できる。
7回目	中間評価試験
8回目	眼科検査　シルマー試験とフルオレセイン試験の方法・意義を説明できる。
9回目	眼科検査　直像検眼鏡，倒像検眼鏡の取り扱い方を説明できる。　ポータブルスリットランプの取り扱い方を説明できる。
10回目	眼科検査　眼圧測定および眼底検査の方法・意義を説明できる。
11回目	神経学的検査　神経学的検査の評価記録法を説明できる。姿勢反応と脊髄反射を説明できる。
12回目	神経学的検査　脳神経の検査法を説明できる。
13回目	神経学的検査　11および12回目の内容が実演出来る。
14回目	期末評価試験および実技試験
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、犬のからだとしくみについての理解が必要。
評価方法	以下の割合で総合評価を行う。 中間評価試験（20%）　期末評価試験（20%）　実技試験（20%）　授業内小テスト（20%）　個別プレゼンテーション（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）
動物病院検査技術ガイド

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床検査学演習 (Practice of Clinical Laoratory for Animal)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	野﨑　昭利
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限

【授業の学習内容】

動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各生体検査の目的と意義を理解し、的確な生体検査の補助ができることを目的とする。

※担当教員実務経験：獣医師。山口市内の動物病院ワンダークリニックを開業。今年で24年目となる。

【到達目標】

心電図検査、X線検査、超音波検査、眼科検査、神経学的検査、内視鏡検査、CT，MRI検査および血圧測定の目的と意義を説明できる。
各検査に必要な器具と用途を説明できる。
各検査内容に合わせた動物の扱いができる。

授業計画・内容	
1回目	超音波検査　毎回各検査実習の前に、TPR測定を行い、必要に応じて血液検査等を実施し、健康状態を確認する。目的・方法、保定体位を説明できる。
2回目	超音波検査　器機の取り扱い方を説明できる。
3回目	超音波検査　超音波の原理原則（Bモード，Mモード，ドップラー法）を説明できる。
4回目	超音波検査　腹部および胸部超音波検査における基本的画像の読影を説明できる。
5回目	超音波検査　腹部および胸部超音波検査における基本的画像の読影を説明できる。
6回目	超音波検査　実習を通してその技術を修得する。
7回目	中間評価試験
8回目	X線検査　目的・意義・注意点を説明できる。放射線防護について説明できる。
9回目	X線検査　実施法と撮影体位（撮影条件の設定と動物のポジショニング）を説明できる。
10回目	X線検査　造影検査と透視を説明できる。
11回目	X線検査　フィルムの現像とデジタルX線撮影の違いを説明できる。
12回目	内視鏡検査　目的・意義，準備・実施方法，スコープの洗浄・消毒法を説明できる。
13回目	CT、MRI検査　CT検査とMRI検査の概要を比較してその違いを説明できる。
14回目	期末評価試験および実技試験
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、犬のからだとしくみについての理解が必要。
評価方法	以下の割合で総合評価を行う 中間評価試験（20%）　期末評価試験（20%）　実技試験（20%）　授業内小テスト（20%）　個別プレゼンテーション（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト6（ファームプレス）
動物病院検査技術ガイド

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物臨床看護学演習 （Practice of Clinical Animal Nursing）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	池上　美紀
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （４）	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日3･4時限

【授業の学習内容】

動物看護師は獣医師の立てた治療方針に沿って動物を看護していくが、治療が最大限の効果を発揮するためには提供する看護内容に細やかな配慮が求められる。
この科目では患者動物の個別性を意識しながら根拠のある看護計画を立案できる力を身に付ける。

※担当教員実務経験：福岡県内の動物病院で動物看護業務に携わっていた。JAHA認定動物看護士1級を取得。
動物看護師統一認定機構 認定動物看護師。

【到達目標】

看護診断・看護目標・看護計画を立てることができる。

授業計画・内容	
1回目	ペーパーシミュレーション
2回目	ペーパーシミュレーション
3回目	ペーパーシミュレーション
4回目	ペーパーシミュレーション
5回目	ペーパーシミュレーション
6回目	ペーパーシミュレーション
7回目	ペーパーシミュレーション
8回目	ペーパーシミュレーション
9回目	ペーパーシミュレーション
10回目	ペーパーシミュレーション
11回目	ペーパーシミュレーション
12回目	ペーパーシミュレーション
13回目	ペーパーシミュレーション
14回目	後期末評価および振り返り
15回目	評価・解説
準備学習 時間外学習	各回の授業を復習したうえで次回の授業を受けること。
評価方法	筆記試験（90%） 授業に取り組む姿勢（5%） 出席率（5%）

【使用教科書・教材・参考書】

動物看護コアテキスト5（ファームプレス）

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物看護総合演習 (Clinical Plactice)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180 (12)	開講区分	随時
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

臨床研修を通じ、授業で学んだ内容の習熟度を主観的・客観的に評価し、より実践的な知識・技術としていく。

※担当教員実務経験：動物病院にて実務に従事している講師が授業を担当。

【到達目標】

臨床研修に臨むための書類作成ができる。
適切に研修日誌を作成できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	臨床研修
3回目	臨床研修
4回目	臨床研修
5回目	臨床研修
6回目	臨床研修
7回目	臨床研修
8回目	臨床研修
9回目	臨床研修
10回目	臨床研修
11回目	臨床研修
12回目	臨床研修
13回目	臨床研修
14回目	臨床研修
15回目	臨床研修
準備学習 時間外学習	各授業で学んだ内容を事前に復習。 研修先の情報を収集する。 日々の研修内容をノートにまとめる。
評価方法	研修日誌の提出をもって単位認定する。

【使用教科書・教材・参考書】

業界研修ノート・学生便覧

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ナチュラルケア （ Natural Care ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	本村　直子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限

【授業の学習内容】

犬との暮らしにおいて、ただ「飼う」だけではなく、より犬らしい食事や住環境、心身の健康について考える必要がある。この授業では、ナチュラルケア（自然療法）の基本である「心身ともに病気になりにくい、健康な身体作り」の為に必要な方法をホリスティックな観点から学ぶ。

※担当教員実務経験：犬の飼育環境やコミュニケーションの方法等、飼い主と愛犬の暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー。
飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催。

【到達目標】

ナチュラルケアの基本的な概念を理解し説明できる
自然治癒力を高めるための方法を理解し説明できる
犬に対するナチュラルケア（生活のサイクルや食事、環境、飼い主の心の在り方）を理解し説明できる

授業計画・内容	
1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	ナチュラルケアとは？（基本的な考え方を理解する）
3回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？　体のバランスについて理解する）
4回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？　体のバランスについて理解する）
5回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？　心のバランスについて理解する）
6回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？　気のバランスについて理解する）
7回目	犬に対するナチュラルケア（犬たちのために出来る事を考える）
8回目	犬に対するナチュラルケア（現代の犬たちのライフスタイルを考える）
9回目	犬に対するナチュラルケア（現代の犬たちのライフスタイルを考える）
10回目	犬に対するナチュラルケア（正しい栄養とは？を考える）
11回目	犬に対するナチュラルケア（環境を整えるとは？を考える）
12回目	犬に対するナチュラルケア（心の安定とは？を考える）
13回目	犬に対するナチュラルケア（心の安定とは？を考える）
14回目	評価試験および振り返り
15回目	犬に対するナチュラルケア（その他の療法　・マッサージ・テリントンタッチ・ハーブ・漢方薬・アロマテラピー・バッチフラワーレメディ　などを紹介）
準備学習 時間外学習	自分自身の心身の健康(自分の心身の管理ができなければ動物の管理もできない)について見直してみること。授業の中で改善すべき点を探し、発表する。 授業で学んだことをノート等にまとめておくこと。
評価方法	筆記試験で100%評価

【使用教科書・教材・参考書】

動物を癒し、動物に癒される（チクサン出版社）
ペットとホリスティックに暮らす（健康・食事・ライフスタイル）（中央アート出版社）

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	アロママッサージ (Aroma Massage)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	前田 しのぶ
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

自然療法の知識・技術を実践に繋げる事を目的とし、アロマの精油やハーブなどを利用したペット用石鹸の作成から販売まで、そして、人へのマッサージを通した癒しの提案を動物に生かし、ペットビジネスとしていく方法を学ぶ。幅広くホリスティックの諸々の学習の中で自分が得意とする分野に気づき、見つけた分野の追求する方向への導きを目的とする。(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコースライセンス取得・日本アロマコーディネーター協会ライセンス取得に沿ったテキストを利用した授業。ペットマッサージ・アロマセラピー・ハーブの基本を学び、人と動物への取り入れ方を学び、基本、人から入ることで動物に対しても優しく接する心を養う。

※担当教員実務経験：人と動物の癒し屋さん「イノセントランド」代表 /日本アロマコーディネーター協会加盟校「イノセントランド」主催。日本ペットマッサージ協会認定ペットマッサージセラピスト/日本アロマコーディネーター協会認定検定トレーナー/熊本市内の動物病院にて週1のアロマ外来を担当。

【到達目標】

自然療法の知識を身に付ける手段として、(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコーステキストに基づいた資格取得及び日本アロマコーディネーター協会テキストより人と動物のアロマセラピーを学び、日本アロマコーディネーター協会認定ライセンスの取得。
また、日本ハーブ振興会ハーブ検定テキストのハーブの10種を身に付ける。
自然療法の知識を犬用の石鹸作りとして活用する。
人へのマッサージ～動物へのマッサージに移行し癒しの提案によるビジネスの方法を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	ペットアロマセラピーマッサージ概要説明
2回目	ストレス社会においての癒しの提案、人と動物のストレスについて
3回目	アロマセラピーの基本1　芳香療法の体験
4回目	アロマセラピーの基本2　精油について（抽出部位と抽出方法）
5回目	アロマセラピーの基本3　アロマセラピーに使用する基材について
6回目	アロマセラピーの基本4　安全に精油を使うためのブレンドファクター
7回目	アロマセラピーの基本5　アロマの吸収経路
8回目	アロマセラピー実践1　オイル作成とハンドトリートメント
9回目	ペットアロマセラピー概論
10回目	ペットアロマセラピー1　犬の嗅覚とアロマ　精油の使用濃度と使い方
11回目	ペットアロマセラピー2　犬の皮膚学
12回目	ペットアロマセラピー3　呼吸器系のアロマ、免疫系のアロマ
13回目	ペットアロマセラピー4　脳への刺激とホルモンへの作用
14回目	振り返り　テーマの精油で犬の好みを調べてみよう
15回目	好みの香りを道板わんこフレグランスつくり
準備学習 時間外学習	準備学習 〇人へのハンドマッサージの取り組み。 〇リンパ・タッチングの整理ノートの作成とまとめ。 時間外学習 〇イベントなどでのペットマッサージセミナーの実施。 〇企業課題の取り組み。
評価方法	授業態度　アロマクラフト作製や実践の積極的な参加　アロマの基本に対する理解を筆記テストにて 授業内小テスト・・・・・20% 期末評価テスト・・・・・40% アロマを使ったペットマッサージ授業内発表・・・・・40%

【使用教科書・教材・参考書】

(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコーステキスト
日本アロマコーディネーター協会認定テキスト(レッスンテキスト/精油テキスト)

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	アロママッサージ (Aroma Massage)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	前田 しのぶ
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限

【授業の学習内容】

自然療法の知識・技術を実践に繋げる事を目的とし、アロマの精油やハーブなどを利用したペット用石鹸の作成から販売まで、そして、人へのマッサージを通した癒しの提案を動物に生かし、ペットビジネスとしていく方法を学ぶ。幅広くホリスティックの諸々の学習の中で自分が得意とする分野に気づき、見つけた分野の追求する方向への導きを目的とする。(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコースライセンス取得・日本アロマコーディネーター協会ライセンス取得に沿ったテキストを利用した授業。ペットマッサージ・アロマセラピー・ハーブの基本を学び、人と動物への取り入れ方を学び、基本、人から入ることで動物に対しても優しく接する心を養う。

※担当教員実務経験：人と動物の癒し屋さん「イノセントランド」代表 /日本アロマコーディネーター協会加盟校「イノセントランド」主催。日本ペットマッサージ協会認定ペットマッサージセラピスト/日本アロマコーディネーター協会認定検定トレーナー/熊本市内の動物病院にて週1のアロマ外来を担当。

【到達目標】

自然療法の知識を身に付ける手段として、(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコーステキストに基づいた資格取得及び日本アロマコーディネーター協会テキストより人と動物のアロマセラピーを学び、日本アロマコーディネーター協会認定ライセンスの取得。
また、日本ハーブ振興会ハーブ検定テキストのハーブの10種を身に付ける。
自然療法の知識を犬用の石鹸作りとして活用する。
人へのマッサージ～動物へのマッサージに移行し癒しの提案によるビジネスの方法を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	アロマ実践　グループワーク　肉球クリーム作製と肉球マッサージ
2回目	アロマ実践　グループワーク　耳ケアアロマとケアテクニック
3回目	アロマ実践　グループワーク　アロマを使ってペット石鹸作成1
4回目	手作り石鹸作成2
5回目	アロマ実践グループワーク　被毛と皮膚のアロマケア
6回目	冊子作り　肉球　耳アロマの資料作成
7回目	冊子作り　皮膚と被毛編資料作り
8回目	冊子作り
9回目	アロマソープシャンプーの実践1
10回目	アロマソープシャンプーの実践2
11回目	石鹸スキンケアマッサージ冊子作り
12回目	石鹸スキンケアマッサージ冊子作り
13回目	石鹸スキンケアマッサージ冊子作り
14回目	冊子を使ったマッサージ講座実践
15回目	冊子を使ったアロママッサージ実践
準備学習 時間外学習	準備学習 〇人へのハンドマッサージの取り組み。 〇リンパ・タッチングの整理ノートの作成とまとめ。 時間外学習 〇イベントなどでのペットマッサージセミナーの実施。 〇企業課題の取り組み。
評価方法	授業態度　アロマクラフト作製や実践の積極的な参加 アロマの基本に対する理解を筆記テストにて授業内小テスト・・・・・20% 期末評価テスト・・・・・40% アロマを使ったペットマッサージ授業内発表・・・・・40%

【使用教科書・教材・参考書】

(社)日本ペットマッサージ協会アカデミックコーステキスト
日本アロマコーディネーター協会認定テキスト(レッスンテキスト/精油テキスト)

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物介在活動演習 (Practice of Animal Assisted Activity)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	佐藤良治(福岡動物医療センター) 川島秀樹 (Pet & Goods Shop Orion)
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

アニマル活動の歴史を学び、「Pet & Goods Shop Orion(オリオン)」のアニマルセラピー活動及び福岡動物医療センターのCAPP活動の実体験をより深いものにするために「動物介在活動」「動物介在療法」「動物介在教育」の学習をすることで、実体験となる「動物介在活動演習」による養護老人ホーム及び障がい者施設へのふれあい活動を私たちができる社会福祉のきっかけとする。また、2年次の「セラピー犬トレーニング」の授業へ発展させ、アニマルセラピー活動から発展させていきたい。

※担当教員実務経験:
佐藤良治:株式会社福岡動物医療センターグループ代表取締役院長。獣医学博士。動物病院協会(JAHA)元理事。
川島秀樹:Pet & Goods Shop Orion代表。2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナー。

【到達目標】

AAA(Animal Assisted Activity)動物介在活動・AAT(Animal Assisted Therapy)動物介在療法・AAE(Animal Assisted Education)動物介在教育と幅広い活動を学び、演習では、ふれあい活動を中心に社会貢献と共に近い将来、指導者としての役割を担える人材を目指す。養護老人ホーム及び障がい者施設へのふれあい活動を実体験する。また、この活動を通して「セラピー犬トレーニング」の考え方からトレーニング方法の一部にもつなげていく。ふれあい活動による地力の向上を図る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・・・・・アニマルセラピーとは、現状について
2回目	アニマルセラピーの歴史
3回目	AAA(Animal Assisted Activity)動物介在活動
4回目	AAT(Animal Assisted Therapy)動物介在療法・AAE(Animal Assisted Education)動物介在教育
5回目	動物介在活動演習　①養護老人ホームでのアニマルセラピーの振り返り　1
6回目	動物介在活動演習　①養護老人ホームでのアニマルセラピーの振り返り 2
7回目	動物介在活動演習　②障がい者フレンドホームでのアニマルセラピーの振り返り
8回目	振り返り・・・・・動物業界におけるアニマルセラピーの在り方
9回目	セラピー犬を育てるには
10回目	セラピー犬を育てるには
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	アニマルセラピーの歴史・調べ学習を行うこと。
評価方法	振り返りレポートによる評価70% 動物介在活動演習振り返りシート30%

【使用教科書・教材・参考書】

配布プリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物理学療法演習Ⅰ （Practice of Animals Physiotherapy－Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	佐藤　友紀
		授業形態	演習	総時間 （単位）	45 (3)	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1～3時限目

【授業の学習内容】

動物看護各教科及び「動物理学療法概論」を踏まえて、授業の場所を福岡動物医療センター内リハビリセンターにて、実際の動物病院のリハビリセンターで、動物病院業務を含む実体験を通し、患畜の出迎え・飼い主からの聞き取りに始まり、診療状況を通し完治状況を看る。授業場所を福岡動物医療センター内リハビリセンターにて授業を行う。来院する患畜の対応のから始めることで動物看護師としての仕事の実体験も含めた内容。患畜のリハビリの１日を体験することで、本物の患畜が対象の実体験形式で行う。同じ患畜が来院することで治療経過の観察も含めた内容。

※担当教員実務経験：獣医師。
米国テネシー大学公認　C.C.R.P.（Certified Canine Rehabilitation Practitioner）資格取得（アメリカ・テネシー大学認定の動物理学療法士）。
福岡動物医療センター及びリハビリセンターで獣医師・動物理学療法士として勤務(福岡動物医療センター春日院長)。

【到達目標】

福岡動物医療センター内のリハビリセンターで授業を実施することで、通常の動物病院業務の実体験及びリハビリセンターに通ってくる(来院)患畜たちのリハビリの実体験を通し、本物の動物理学療法の体験が動物のリハビリに対し、実体験のある動物看護師としてスタートなる。
また、動物病院業務から始まることで、今まで学んだ動物看護に関わる教科及び動物理学療法概論の授業などのピースを当てはめ、全ての授業の集大成として、4月からの動物看護師としてのスタートラインに立つ。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・・・・福岡動物医療センター春日及びリハビリセンターでの授業について
2回目	問診・・・・飼い主様対応　／　犬種の特性・習慣・行動・・・動物理学療法概論より復習）
3回目	米国テネシー大学公認　C.C.R.P.資格取得動物理学療法士が動物看護師に望むリハビリ
4回目	アセスメント・各論
5回目	実践　神経学・整形学的検査
6回目	実践　マッサージ
7回目	実践　ストレッチ　ROM
8回目	実践　エクササイズ
9回目	実践　電気（アイシング・温熱・針・レーザー）
10回目	症例　ヘルニア
11回目	症例　肥満
12回目	症例　老犬
13回目	プログラムの組み立て
14回目	プログラムの組み立ての評価
15回目	実技の実施評価
準備学習 時間外学習	準備学習・時間外学習 〇福岡動物医療センター春日(リハビリセンター)へ来院される飼い主様への問診の補助 〇毎回のリハビリ計画の理解とリハビリサポートの整理(ノート整理)
評価方法	毎回のリハビリ計画の理解とリハビリサポートの評価・・・・・40% ウォータートレッドミルの準備・片づけ・実施・・・・・・10% 期末評価週の確認テスト(実技25%・知識25%)・・・・・50%

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成資料
犬の解剖カラーリングアトラス(株式会社学窓社)

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物理学療法演習Ⅰ （Practice of Animals Physiotherapy－Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	佐藤　友紀
		授業形態	演習	総時間 （単位）	45 (3)	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1～3時限目

【授業の学習内容】

動物看護各教科及び「動物理学療法概論」を踏まえて、授業の場所を福岡動物医療センター内リハビリセンターにて、実際の動物病院のリハビリセンターで、動物病院業務を含む実体験を通し、患畜の出迎え・飼い主からの聞き取りに始まり、診療状況を通し完治状況を看る。授業場所を福岡動物医療センター内リハビリセンターにて授業を行う。来院する患畜の対応のから始めることで動物看護師としての仕事の実体験も含めた内容。患畜のリハビリの１日を体験することで、本物の患畜が対象の実体験形式で行う。同じ患畜が来院することで治療経過の観察も含めた内容。

※担当教員実務経験：獣医師。
米国テネシー大学公認　C.C.R.P.（Certified Canine Rehabilitation Practitioner）資格取得（アメリカ・テネシー大学認定の動物理学療法士）。
福岡動物医療センター及びリハビリセンターで獣医師・動物理学療法士として勤務(福岡動物医療センター春日院長)。

【到達目標】

福岡動物医療センター内のリハビリセンターで授業を実施することで、通常の動物病院業務の実体験及びリハビリセンターに通ってくる(来院)患畜たちのリハビリの実体験を通し、本物の動物理学療法の体験が動物のリハビリに対し、実体験のある動物看護師としてスタートなる。
また、動物病院業務から始まることで、今まで学んだ動物看護に関わる教科及び動物理学療法概論の授業などのピースを当てはめ、全ての授業の集大成として、4月からの動物看護師としてのスタートラインに立つ。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・・・・福岡動物医療センター春日及びリハビリセンターでの授業について
2回目	問診・・・・飼い主様対応　／　犬種の特性・習慣・行動・・・動物理学療法概論より復習）
3回目	米国テネシー大学公認　C.C.R.P.資格取得動物理学療法士が動物看護師に望むリハビリ
4回目	アセスメント・各論
5回目	実践　　神経学・整形学的検査
6回目	実践　　マッサージ
7回目	実践　　ストレッチ　ROM
8回目	実践　　エクササイズ
9回目	実践　　電気（アイシング・温熱・針・レーザー）
10回目	症例　　ヘルニア
11回目	症例　　肥満
12回目	症例　　老犬
13回目	プログラムの組み立て
14回目	プログラムの組み立ての評価
15回目	実技の実施評価
準備学習 時間外学習	準備学習・時間外学習 ○福岡動物医療センター春日(リハビリセンター)へ来院される飼い主様への問診の補助 ○毎回のリハビリ計画の理解とリハビリサポートの整理(ノート整理)
評価方法	毎回のリハビリ計画の理解とリハビリサポートの評価・・・・・40% ウォータートレッドミルの準備・片づけ・実施・・・・・・10% 期末評価週の確認テスト(実技25%・知識25%)・・・・・50%

【使用教科書・教材・参考書】

犬の解剖カラーリングアトラス(株式会社学窓社)
講師作成資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物理学療法演習Ⅱ（Practice of Animals Physiotherapy－Ⅱ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	窪田　満
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

2年次の{動物理学療法概論」「動物水中療法概論」の両総論の内容として理解する。最終的に人の体と犬を対比することで、わかりやすく徒手療法の有効性として、手を使って出来るリハビリの重要さとマッサージ概論として理学療法においてマッサージの役割・マッサージの効果として、マッサージがどのように身体に働きかけるかを理解する。基本的に講義形式での授業から始まり、基礎知識がつくことにより、動物を使った演習へ進む。 犬の関節の稼動域など解剖学で学んだ事を、ヒトに対する理学療法と犬に対する理学療法を対比しながら授業をすすめる。

※担当教員実務経験：2002年理学療法士免許取得。2010年～2012年　専門学校専任教員（理学療法士）・2012年～現在、専門学校非常勤講師（理学療法士）。
2012年～2019年理学療法士として林整形外科医。2019年より若宮病院勤務、現在に至る。

【到達目標】

なぜ、理学療法が必要なのか。リハビリを行った時と行わなかった時の違いを理解し大切さを知る。動物理学療法総論として、理学療法の種類・効果を理解し、動物運動療法総論として、運動・物理・水中療法の種類・効果を理解する。徒手療法の有効性・マッサージ概論・マッサージの効能を自分の体を使い、犬と対比し徒手療法を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	運動療法の目的/利点/基本原則
2回目	運動療法の形式　①他動運動
3回目	運動療法の形式　②固有受容位置感覚を訓練するための運動
4回目	運動療法の形式　③患肢の使用を改善させるための自動運動
5回目	運動療法の形式　④スピードと筋力増強のための運動
6回目	物理療法　①NMES:神経筋電気刺激
7回目	物理療法　②超音波療法
8回目	物理療法　③水治療法
9回目	物理療法　④温度療法
10回目	理学療法の適応例　骨折に対して1
11回目	理学療法の適応例　骨折に対して2
12回目	理学療法の適応例　関節炎に対して
13回目	授業を振り返って
14回目	運動療法の実践発表
15回目	物理療法の実践発表
準備学習 時間外学習	準備学習 〇講師作成予習プリントを行うこと。 〇授業内定着と確認テストの振り返りを行うこと。
評価方法	授業内定着度確認(小テスト)・・・・・・10% 学習プリント提出・レポートでの評価・・・・・・・50% 学期末評価実技テスト・・・・・40%

【使用教科書・教材・参考書】

犬の解剖カラーリングアトラス(株式会社学窓社)
講師作成資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物理学療法演習Ⅱ（Practice of Animals Physiotherapy－Ⅱ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	窪田　満
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

2年次の{動物理学療法概論」「動物水中療法概論」の両総論の内容として理解する。最終的に人の体と犬を対比することで、わかりやすく徒手療法の有効性として、手を使って出来るリハビリの重要さとマッサージ概論として理学療法においてマッサージの役割・マッサージの効果として、マッサージがどのように身体に働きかけるかを理解する。基本的に講義形式での授業から始まり、基礎知識がつくことにより、動物を使った演習へ進む。 犬の関節の稼動域など解剖学で学んだ事を、ヒトに対する理学療法と犬に対する理学療法を対比しながら授業をすすめる。

※担当教員実務経験：2002年理学療法士免許取得。2010年～2012年　専門学校専任教員（理学療法士）・2012年～現在、専門学校非常勤講師（理学療法士）。
2012年～2019年理学療法士として林整形外科医。2019年より若宮病院勤務、現在に至る。

【到達目標】

なぜ、理学療法が必要なのか。リハビリを行った時と行わなかった時の違いを理解し大切さを知る。動物理学療法総論として、理学療法の種類・効果を理解し、動物運動療法総論として、運動・物理・水中療法の種類・効果を理解する。徒手療法の有効性・マッサージ概論・マッサージの効能を自分の体を使い、犬と対比し徒手療法を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	理学療法の種類　①関節可動域訓練
2回目	理学療法の種類　②ストレッチ
3回目	理学療法の種類　③マッサージ
4回目	理学療法の種類　④運動療法
5回目	理学療法の種類　⑤温冷療法
6回目	理学療法の種類　⑥電気刺激療法
7回目	理学療法を行うに当たり実施すべき検査　1
8回目	理学療法の実践方法　1 マッサージの効果・適応・禁忌
9回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　①ストローキング
10回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　②ニーディング
11回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　③フリクション
12回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　④圧迫法
13回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　⑤シェイキング
14回目	理学療法の実践方法　2 マッサージのやり方　⑥パーカッション
15回目	マッサージ実践
準備学習 時間外学習	準備学習 〇講師作成予習プリントを行うこと。 〇授業内定着と確認テストの振り返りを行うこと。
評価方法	授業内定着度確認(小テスト)・・・・・・10% 学習プリント提出・レポートでの評価・・・・・・・50% 学期末評価実技テスト・・・・・40%

【使用教科書・教材・参考書】

犬の解剖カラーリングアトラス(株式会社学窓社)
講師作成資料

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	人と動物のふれあい活動 (Companion Animal Partnership Program)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	佐藤良治(福岡動物医療センター)
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

企業課題CAPP活動を通して、実際に養護老人ホーム及びデイサービス施設、障がい者施設を訪問し、動物介在活動について、学校飼育犬を使っての介在活動の実践。

※担当教員実務経験：株式会社福岡動物医療センターグループ代表取締役院長。獣医学博士。動物病院協会(JAHA)元理事。

【到達目標】

人と動物のふれあい活動は、目的により次の3つの活動に分けられる。
①AAA（Animal Assisted Activity）動物介在活動。
②AAT（Animal Assisted Therapy）動物介在療法。
③AAE（Animal Assisted Education）動物介在教育。
この演習では、動物とふれあうことによる情緒的な安定、レクリエーション・QOLの向上などを主な目的としたふれあい活動を中心に社会貢献と共に近い将来、指導者としての役割を担える人材を目指す。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・・・・今後の活動予定。アニマルセラピー・CAPP活動の復習と活動時の注意点
2回目	オリエンテーション・・・・CAPP活動と福岡動物医療センター(JAHA動物病院協会)の企業課題の取り組み
3回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
4回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(デイサービスセンター南風)
5回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
6回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(デイサービスセンター南風)
7回目	福岡動物医療センターCAPP活動として障がい者フレンドホームでの演習(東障がい者フレンドホーム)
8回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
9回目	福岡動物医療センターCAPP活動として障がい者フレンドホームでの演習(東障がい者フレンドホーム)
10回目	振り返り/ボランティア活動としての社会貢献とペットビジネスとしての社会貢献/満足度を上げるための取り組み
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	アニマルセラピーの歴史・調べ学習を行うこと。
評価方法	振り返りレポートによる評価70% 動物介在活動演習振り返りシート30%

【使用教科書・教材・参考書】

配布プリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物介在療法 (Animal Assisted Therapy)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	佐藤良治(福岡動物医療センター)
		授業形態	講議	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

アニマルセラピー・CAPP活動を取り組むことでふれあい活動が実践できる知識を詳しく学ぶ。

※担当教員実務経験：株式会社福岡動物医療センターグループ代表取締役院長。獣医学博士。動物病院協会(JAHA)元理事。

【到達目標】

人と動物のふれあい活動は、目的により次の3つの活動に分けられる。
①AAA（Animal Assisted Activity）動物介在活動。
②AAT（Animal Assisted Therapy）動物介在療法。
③AAE（Animal Assisted Education）動物介在教育。
この演習では、動物とふれあうことによる情緒的な安定、レクリエーション・QOLの向上などを主な目的としたふれあい活動を中心に社会貢献と共に近い将来、指導者としての役割を担える人材を目指す。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・・・・アニマルセラピーの中のCAPP活動とは
2回目	①AAA（Animal Assisted Activity）動物介在活動。
3回目	②AAT（Animal Assisted Therapy）動物介在療法。
4回目	③AAE（Animal Assisted Education）動物介在教育。
5回目	福岡動物医療センターの養護老人ホームでのCAPP活動について
6回目	福岡動物医療センターの障がい者施設でのCAPP活動について
7回目	活動の方法・必要事項
8回目	振り返り・・・・・社会貢献・仕事・ボランティア
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	アニマルセラピーの歴史・調べ学習を行うこと。 授業後はレポートを提出すること。
評価方法	振り返りレポートによる評価70% 動物介在活動演習振り返りシート30%

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	内定者研修 （ Practical Training ）	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授業計画・内容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む （1）
2回目	就職内定先において業務経験を積む （2）
3回目	就職内定先において業務経験を積む （3）
4回目	就職内定先において業務経験を積む （4）
5回目	就職内定先において業務経験を積む （5）
6回目	就職内定先において業務経験を積む （6）
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む （7）
9回目	就職内定先において業務経験を積む （8）
10回目	就職内定先において業務経験を積む （9）
11回目	就職内定先において業務経験を積む （10）
12回目	就職内定先において業務経験を積む （11）
13回目	就職内定先において業務経験を積む （12）
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		(12)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（1）
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（2）
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（3）
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（4）
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（5）
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（1）
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（2）
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（1）
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（2）
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（3）
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（4）
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	卒業企業課題 (Practical Assignment from a Workplace)	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	動物看護師&福祉・理学療法専攻	実施方法	対面授業		(12)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。
プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。
実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （1）
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （2）
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （3）
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （1）
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （2）
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （3）
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （1）
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （2）
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （3）
12回目	企画したイベントの実践 （1）
13回目	企画したイベントの実践 （2）
14回目	企画したイベントの実践 （3）
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	イベントの企画・立案力：30% プレゼンテーション力：30% 実践力：40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】